

谷村地区

其の四

神社名 阿夫利神社

鎮座地 都留市玉川峯海戸五七〇番地

祭神 大山祇命

例祭

九月十日

由緒

勧請の年代等詳かではないが、境内の樹木年令より推定すれば、約七、八百年前の創立と思われる。
古老の話や口碑などによると、創建は建久年間（一一九〇年〜一九八一年）の頃で、今の鳥居前に庁屋があり、此に僧道円が不動明王を祀って、村内の病魔退散、五穀豊稔を祈願奉仕した。そのため村民の信仰厚く玉川地区の産土神として崇敬されるに至った。

この祭神は木花開耶姫命の父神で世に山の神と称されている。

明治五年村社となる。

山梨県市郡村誌に

〔阿夫利社〕 社地東西拾間南北九間壹尺七寸面積九拾參坪本村東方玉川上組ニアリ祭神未詳祭日陰曆七月廿八日社地中樞ノ大樹

壹株アリ云。

とある。

社殿

本殿 流造り一

間社 ト

タン葺。

拝殿 二間〓二

間の廊下

で本殿に

つながっ

ていて、

入母屋造

りトタン

葺で五間

〓二間半。

鳥居 木造一基。

神灯 一对。

境内社

境内三七四坪の中に、社殿に向って左側に、大山祇命の山神社、素盞鳴尊の風神社、機神社が祀られ、右側には崇徳天皇の金毘羅社がある。

阿夫利神社参道石段登り口右側に、古くして大きな一本の彼岸桜がある。この彼岸桜は、昭和四十九年四月十一日付にて、都留市指定記念物第五号に登録されている。

神社名 御嶽神社

鎮座地 都留市戸沢西海戸一八六番地

祭神 大己貴命、

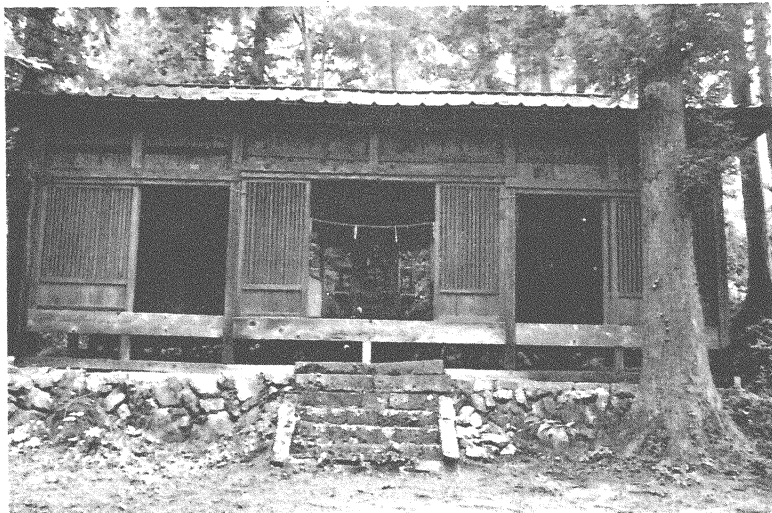
少彦名命、

須佐之男命、

配祀

伊邪那岐命、

日本武尊、



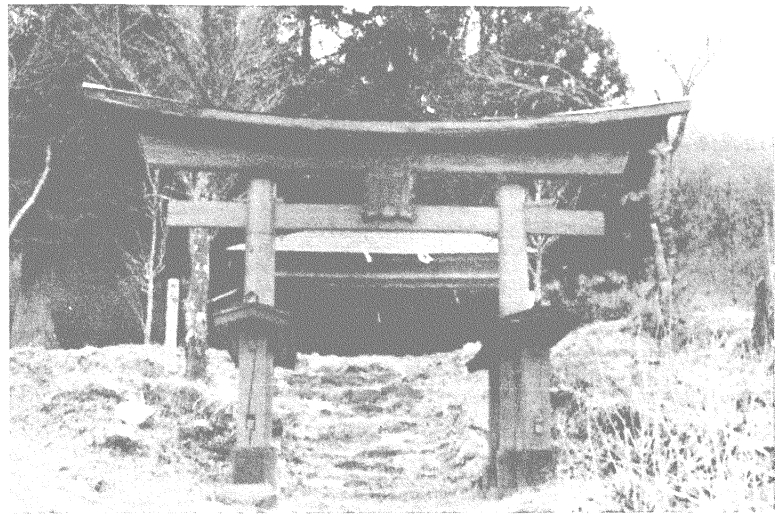
例祭

四月十五日例祭日、

神事用具

神楽保存。

由緒



地東西式拾間面積式百四拾坪本村東方戸沢組字御嶽堂ニアリ祭神伊弉諾命祭日陰曆七月十一日社地中柵ノ大樹老株アリ、囲老丈とある。

甲斐国志には

一〔御岳権現〕戸沢村 産神ナリ倒祭七月十一日。となつてゐる。

社殿

本殿 流造りトタン葺、一間社。

拝殿 寄棟造りトタン葺、三間〓二間。

鳥居 木造一基

〔御嶽大権現社〕の額が奉納されている。

境内社

境内二百四十坪の中に、

保食、稚産霊神を祀る養蚕神社がある。

神社名 金山神社

鎮座地 都留市戸沢五七九番地

祭神 金山彦命、金山姫命、

〔御嶽社〕 社

例祭

四月十七日、

九月十日 春秋の二回行なわれる。

神事用具

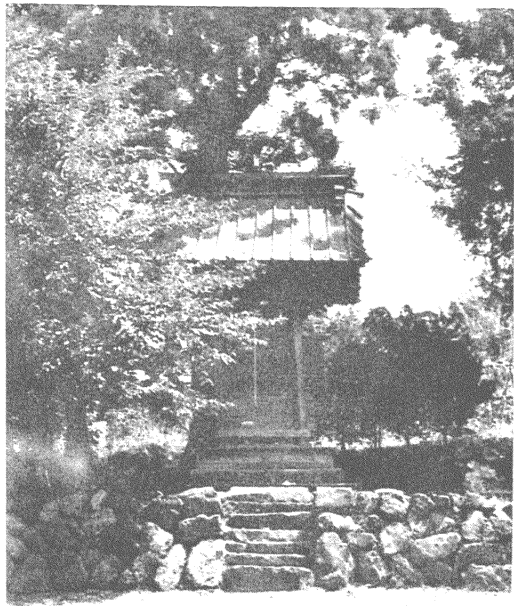
神楽保存

由緒

創立、由緒共に不明である。

南鶴神社誌によると

「此の命（祭神二柱のこと）は伊邪那岐、伊邪那美命大之迦具土



神を産み病み臥いる時生まれた神で、金、金山ののたれ神で、金山の事を護り掌る神であり、土中より荒金を取り劔、鍬、鏡、刃、鋤等鍛えるのもこの神の幸である。

甲斐国志には

一〔金山権現〕 例祭三月二十一日井倉村神主兼帯二社共ニ社地見捨地。とある。

社殿

本殿は流造りの一間社でトタン葺。

舞殿 寄棟造りトタン葺 五間〓三間。

鳥居 木造一基

〔御嶽大権現社〕の額が奉納されている。

境内社

境内二百四十坪の中に、

保食、稚産霊神を祀る養蚕神社がある。

神社名 金山神社

鎮座地 都留市戸沢五七九番地

祭神 金山彦命、金山姫命、

〔御嶽社〕 社

また、山梨県市郡村誌には

〔金山社〕 社地東西式拾四間南北八間面積百九拾式坪本村南方

戸沢組ニアリ云 と記されている。

甲斐国志に

一〔金山権現〕 例祭三月二十一日井倉村神主兼帯二社共ニ社地見捨地。とある。

ここに云う二社は、御嶽神社と金山神社のことである。

ここに云う二社は、御嶽神社と金山神社のことである。

ここに云う二社は、御嶽神社と金山神社のことである。

ここに云う二社は、御嶽神社と金山神社のことである。

社殿

本殿は流造りの一間社でトタン葺。

舞殿 寄棟造りトタン葺 五間〓三間。

鳥居 木造一基

境内社

甲子社一社あり。

神社名 小野熊野神社

鎮座地 都留市小野一、四六八番地

祭神 伊弉諾命、伊弉册命、熊野大神、

天照大神、月夜見命、櫛御氣野命、須佐之男命、事代主命、事解男命、

例祭

九月九日

神事用具

神楽保存

由緒

大同二丁亥年（八〇七年）七月十九日の創立といわれ、三吉、開地、盛里、秋山、道志の五カ山の守護神として尊敬された神社であるが、現在は小野組、熊



井戸組に属している。

当社は、小野六社、熊野三社、計九社が合祀されている。

天明元年辛丑年（一八五三年）の二回にわたって、再建及び修築されている。

明治五年三月五日郷社に列格。

明治四十年二月十六日神饌幣帛供進指定神社となる。

甲斐国社記に

○小野六社太神

都留郡小野村熊井戸

○熊野三社太神

祭神 櫛御氣野命、

速須佐之男命、

熊野加武呂命、

社地 百五拾坪

御黒印地

神領 四反九畝拾五歩 御黒印地

祭日 七月十九日、九月十九日 とある。

甲斐国志には

一〔熊野三社 権現〕小野村

小山田信有が文書ニ保ノ尾総社権現トアリ保ノ尾ハ今作法能古ハ法能ヨリ西南熊井戸、小野菅野等皆保ノ尾郷ナリ此諸村ノ産ナリシガ今ハ各自ニ産神ヲ祭ル故ニ唯小野、熊野井ノ産神トフレリ文祿三年八月領主浅野左衛門佐氏重ノ内室

ヨリ高三石八斗式升ノ地寄附 慶長六辛丑八月三斗八升ノ地寄附 状アリ社地五百拾坪見捨地ナリ黒印神領畑四反九畝拾五歩社中ニ古杉アリ大拾畝許空穴アリ六七人ヲ容ルベシ 中略 祭礼七月十九日神主神藤若狭。と記されている。

社殿

県道道志線沿いのコンクリート製の大鳥居を経て、プログレス株式会社後方、木造両部造りの鳥居前に、小野熊野神社（昭和二十八年建立）の大きな碑がある。それより老松古杉の参道を通って社殿に至る。

本殿 拜殿より一間||一間半の廊下を経て本殿が祀られている。

檜皮葺の上を銅板にて葺き、権現造りの二間社である。

鉄骨製の四間||四間の雨屋がある。

拜殿 切妻トタン葺 四間||三間 中に小野熊野大神の額がある。

神庫 切妻トタン葺 一間||一間半。

社務所 切妻トタン葺 三間||二間。

鈴 一

小野御像について

小野六社、熊野三社の計九社の御神体のうち、その大なるものは小野御像であるといふことである。

小野御像とは、南朝の遺臣小野十郎正武を祀ったものであるといふ。

応永十年（一四〇三年）富士谷の役に南朝軍が敗走し、宇津保の宮伊良親王を擁して、御祖代山に潜駐し奉りしと伝えられている。

神社名 諏訪神社

鎮座地 都留市小野下田八一一番地

祭神 建御名方命、

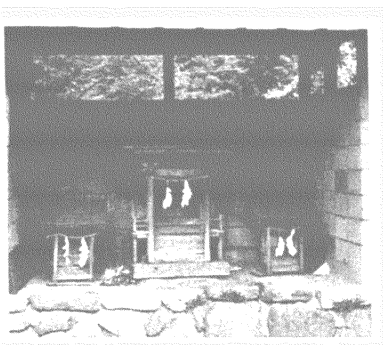
例祭

九月十日例祭日、昔は小野熊野神

社の神楽が奉納されたが今はない。

由緒

小野組内の重森一族八軒の氏神であるが、創立等については不明である。古老の話によると、文化年間（一八〇四年〜一八一七年）の創立であると伝えられている。



神社の世話は、氏族の人々が一年交代で行なっている。
社 殿

切妻トタン葺 一間半||一間。

本殿中央諏訪神社。向って右天神社、向って左稻荷神社。

重森幹成氏方の裏に屋敷神として、天白さんが祀られている。御神体は白い大蛇で、「神無月でも頭が伊勢についても尾が残る」といわれている。諏訪神社と同時に奉遷されたものと伝えられている。

なお

重森幹成氏方には、白道作といわれる恵比寿、大黒天が所蔵されている。

何れも、高さ31 *cm*、巾17.5 *cm*、厚さ6.5 *cm*ある。